

ウィーン国立音楽大学の音楽教育
－ 入学から卒業までの制度 －

Music education at University of Music and Performing Arts Vienna
－ Systems from college admission to graduation －

渡 邊 響 子
Kyoko Watanabe

目次

はじめに

1. ウィーン国立音楽大学の歴史
2. 大学の制度
 - 2.1. 研究所
 - 2.2. コース
 - 2.3. 期間
 - 2.4. 授業料
3. 受験から入学まで
 - 3.1. 受験要項 2020/21年
 - 3.2. 聴音と音楽理論の筆記試験
 - 3.3. 実技試験
 - 3.4. 入学資格
 - 3.4.1. ドイツ語証明
 - 3.5. 入学時期
4. カリキュラム（器楽科）
 - 4.1. ECTS ポイント・研究期間・研究段階
 - 4.2. 研究構成
 - 4.2.1. 第一研究段階
 - 4.2.2. 第二研究段階
5. 卒業試験
 - 5.1. 第一ディプロマ試験
 - 5.2. 第二ディプロマ試験
 - 5.3. 学位

まとめ

参考資料

参考文献

はじめに

ウィーン国立音楽大学の公式ホームページを開いてまず1番に目に入ってくるのが、

“Die mdw – Universität für Musik und darstellende Kunst Wien ist eine der weltweit größten und renommiertesten Universitäten der Aufführungskünste Musik, Theater und Film.”¹

『ウィーン国立音楽大学（mdw）は、音楽・演劇・映画の舞台芸術において世界最大かつ最も有名な大学である。』

というタイトルだ。1817年に創立され200年以上の歴史を持つウィーン国立音楽大学は、オーストリア最大の芸術大学であり、2019年に発表された「世界の音楽大学ランキング」では1位に輝いた世界最高峰の芸術大学であるのだ。残念ながら、日本のトップクラスの音楽大学でさえ100位以内にも入っていない。

ウィーン国立音楽大学では、歴史あるウィーンの豊かな音楽文化と伝統を守り、次世代に継承するだけでなく、絶えず新しい教育プログラムを取り入れ、様々な分野の音楽においてトップレベルの音楽教育水準を誇っている。また特徴としては、多くのウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の楽団員や世界の超一流演奏家が教授として大学で指導し、ヨーロッパやアジア、アメリカなど、世界中から多国籍な生徒が集まってきている。

この論文では、2021年現在のウィーン国立音楽大学の制度についてまとめ、桐朋学園大学音楽学部とウィーン国立音楽大学の両方で学んだ筆者の経験のもと、日本との音楽大学教育の違いについても研究していきたい。

1. ウィーン国立音楽大学の歴史

1808年にはすでにパリ音楽院のスタイルに基づいて、設立のための議論が行われていた。そして、1812年創立されたウィーン楽友協会が主体となり計画は進められ、1817年に声楽学校を「ウィーン楽友協会音楽院（Konservatorium der Gesellschaft der Musikfreunde）」として設立し、教育機関の基礎を築いた。よってウィーン国立音楽大学公式の創立年は1817年である。ウィーンのヴァイオリンスクールの創設者であるジョセフ・ベームの関与により、1819年には器楽のレッスンも始まり、学校のコースは大幅に拡大され、1890年代までにすでに1000人を超える学生を教えることができるようになった。

そして1909年、皇帝の決議によりこの私立学校は国有化され、「帝国王立アカデミー（K. K. Akademie für Musik und darstellende Kunst）」と呼ばれるようになった。国有化に伴い、ウィーン・コンツェルトハウス財団の協力のもと、1912年からリハーサル用の舞台（現在のアカデミー劇場）を備えた独自の建物が建設され、1914年より

¹ “home | mdw – Universität für Musik und darstellende Kunst Wien.” <https://www.mdw.ac.at/>. (参照 2021-1-10)

使用されるようになった。第一次世界大戦後の1919年には、この機関は「国立アカデミー (Staatsakademie für Musik und darstellende Kunst)」と改称された。1928年、アカデミーは演劇ゼミナールと音楽教育ゼミナールを追加し拡大していった。第二次世界大戦の1939年から1945年の間、ユダヤ人の教師と学生を除いて「帝国大学 (Reichshochschule)」として継続された。戦後の1946年、再び「芸術アカデミー (Akademie für Musik und darstellende Kunst)」となった。

1952年、ウォルター・コルム・ヴェルテはフィルムデザインの特別コースを設立し、1960年には、ハンス・ウィングを中心とした映画の授業が追加され、1963年にはこの2つのコースが統合され、映画テレビ学科になった。その後さらに多くのコースが追加され、ウィーン・フィルム・アカデミーとしても知られるようになった。そうして、学校は1970年から1998年まで「音楽・舞台芸術大学 (Hochschule für Musik und darstellende Kunst in Wien)」に、1998年からは現在の「ウィーン国立音楽大学 (Universität für Musik und darstellende Kunst Wien)」となった。

この歴史の中で、フランツ・シューベルト、リヒャルト・シュトラウス、ヨハネス・ブラームス、グスタフ・マーラーといった音楽の教科書に載っているようなクラシック音楽の大作曲家達がこの大学の出身者である。また、ウィルヘルム・フルトヴェングラー、ブルーノ・ワルター、ヘルベルト・フォン・カラヤン、ズービン・メータなど偉大なる指揮者を多く輩出してきた。

2. 大学の制度

ウィーン国立音楽大学では、2021年現在、25の研究所において41の大学コースと115の研究分野を提供している。ウィーン市内に9つの校舎を持ち、大学および研究機関として70か国以上から約3,000人の学生が在籍している。また、約1,260人の教員を雇用し、年間1,300以上の芸術的・学術的なイベントを開催している。個人レッスンとグループレッスンの平均監督率は、教師1人あたりにつき生徒4.7人であり、これはオーストリアでも有数の高い水準である。

2.1. 研究所

- 1) 作曲・電子音響・録音技師養成
- 2) 音楽指揮
- 3) 音楽学・解釈研究
- 4) 演奏家コース ピアノ
- 5) 演奏家コース 弦楽器・ギター・ハーブ
- 6) 演奏家コース 吹奏楽器・打楽器
- 7) 室内楽・古典音楽・現代音楽
- 8) オルガン・オルガン研究・教会音楽
- 9) 声楽・音楽劇場
- 10) 演劇・演出
- 11) 映画・テレビ

- 1 2) 音楽教育・音楽教授学・初等音楽制作
- 1 3) 音楽/運動教育学・リズム法・音楽生理学
- 1 4) 音楽療法
- 1 5) ポピュラー音楽
- 1 6) 音楽教育コース ピアノ・チェンバロ
- 1 7) 音楽教育コース 弦楽器・ギター・ハーブ
- 1 8) 音楽教育コース 吹奏楽器・打楽器
- 1 9) 音楽教育コース 声楽・音声研究
- 2 0) 音楽教育コース 合唱/アンサンブル指揮・作曲
- 2 1) 民族音楽・民族音楽学
- 2 2) 音響学・ウィーンサウンドスタイル
- 2 3) 音楽社会学
- 2 4) 文化管理・ジェンダー研究
- 2 5) 古典音楽

2.2. コース

大学にはディプロマ、学士、修士、博士課程があり、卒業するとディプロマ (Magister artium)、学士 (Bachelor)、修士 (Master)、博士 (Doctor Artium) の学位・称号が得られる。この他に、大学前の準備科や卒業後のコースなどもある。

【声楽、鍵盤楽器、室内楽、教会音楽、音楽療法以外の専攻】

ディプロマコース Mag. art. (Magister artium)

【音楽療法】

修士課程 MA (Master)

【声楽、鍵盤楽器、室内楽】

学士課程 BA (Bachelor)

修士課程 MA (Master)

【音楽教育】

ディプロマコース Mag. art. (Lehramtsstudium)

学士課程 BA (Bachelor)

修士課程 MA (Master)

【教会音楽 (カトリックまたはプロテスタント)】

学士課程 Bachelor Studium

修士課程 Master Studium

2.3. 期間

期間は1年間2ゼメスターでカウントされ、ディプロマコースは10ゼメスター (鍵盤楽器、室内楽以外の器楽は12ゼメスター、舞台音楽監督は8ゼメスター)、学士課程は8ゼメスター、修士は4ゼメスターで構成されている。単位の取り方次第では、この期間を要

さなくても飛び級し卒業試験を受けることができる。また、大学に学年はなく、全ての授業を自由にプランニングすることができる。

新学期の冬ゼメスターは10月から1月まで、夏ゼメスターは3月から6月までである。冬休みは2月、夏休みは7月から9月、イースター休暇は3月又は4月に2週間、クリスマス休暇は年末年始にかけて2週間あるため、年間を通して5ヶ月は休暇が設けられている。

2.4. 授業料

2012年頃までは無料だったが、現在、EU/EWR²内の国民である生徒は、年間726.72ユーロ(約92,048円)、第三国国民の場合は1,453.44ユーロ(約184,096円)³である。

3. 受験から入学まで

ここからは、筆者が専攻していた「器楽科ヴァイオリン専攻ディプロマコース」のプログラムを主に取り上げまとめていきたい。

3.1. 受験要項 2020/21年

受験の申し込みは大学のホームページよりインターネットで行う。受験料は無料。

【入学試験】

主要な芸術科目のための適性、及び選択した楽器に関する予備知識を入学試験を通して確かめる。また、入学試験では一般的な音楽理論の知識も示さなければいけない。試験は以下のように分かれている。

- a) 聴音の試験を含む一般的な音楽理論の筆記試験：これは、必要に応じて口頭試験によって補足、または置き換えることができる。
- b) 選択した楽器を用いて、異なった様式の作品をいくつか演奏する。

準備するの曲は次の通り：

ヴァイオリン協奏曲一曲（全楽章とカデンツ）

無伴奏バッハソナタまたはパルティータよりゆっくりと早い楽章を一曲ずつ

ヴァイオリンとピアノのためのソナタを一曲 自由選択

エチュードまたはカプリス一曲（ローデ・ドント・ガビニエ・ヴィエニャフスキ・パガニーニ）

² Europäischen Union (EU) と Europäischen Wirtschaftsraums (EWR)の略で、欧州連合と欧州経済領域を意味する。

³ 2020年1月10日のレートで換算した場合の金額

両方の試験に通過した場合のみ、芸術的適性が認められる。入学試験に合格かどうかは、利用可能なリソースと適任者数に基づいて判断される。

b)の試験に受かり a)の試験に受からなかった場合は、一度だけ決められた日に再試験を受けることができる。もし受けなかった場合は、次の入学試験で再受験し直さなければいけない。(資料1)

3.2. 聴音と音楽理論の筆記試験

筆記試験は基本的にドイツ語で行われるが、英語での対応も可能である。過去に行われた試験内容と試験に必要な最低限のドイツ語単語を以下にまとめる。(図1)

2019年に行われた試験内容

- 1) 音程の聴き取り
- 2) 和音の聴き取り
- 3 a) 正しい調子記号の記入
- 3 b) 移調
- 4) 低音の聴き取り
- 5) リズムの聴き取り
- 6) 3声の欠けている音の聴き取り
- 7) 2つ目の和音の聴き取り
- 8) 和音の音程名を記入
- 9) 調号の記入

(資料2 a, 2 b)

試験に必要なドイツ語単語

音程	Intervall
完全音程	reine Intervall
完全1度	reine Prime
完全4度	reine Quarte
完全5度	reine Quinte
完全8度	reine Oktave
減5度	verminderte Quinte
増4度	übermäßige Quarte
重増4度	doppelübermäßige Quarte
9度	Non
10度	Dezim
11度	Undezim
12度	Duodezim
長(短)音程	große(kleine) Intervall
長(短)2度	große(kleine) Sekunde
長(短)3度	große(kleine) Terz
長(短)6度	große(kleine) Sexte
長(短)7度	große(kleine) Septe
主要3和音	Hauptdreiklang
長3和音	Durdreiklang
短3和音	Molldreiklang
増3和音	verminderter Dreiklang
減3和音	übermäßiger Dreiklang
属7の和音	Dominantseptakkord
減7の和音	verminderter Septakkord

(図1)

3.3. 実技試験

筆記試験終了後、後日結果発表と同時に実技の順番が張り出される。

予備科の受験者から始まり、ディプロマコースは年齢順に審査される。ただしオーストリア人受験者は一定数入学させなければいけないため、別日に別枠で行われる。

準備するプログラムは約1時間くらいだが、試験での演奏時間は1人7分ほどで2、3曲である。1曲目に演奏する曲は自分で選択できるが、2曲目と3曲目は審査員の先生によってその場で指定される。

試験は点数制だが、ヴァイオリンの先生の持っている生徒枠の空き状況によって、毎年合格する人数は変動する。出願時に希望を出した先生の生徒枠に空きがない場合、合格しても他の先生のクラスに入ることになる。したがって、あらかじめ習いたい先生とはコンタクトをとり、空き状況を確認しておかなければならない。

3.4. 入学資格

ディプロマコースと学士課程では、ドイツ語証明 (B1) が必要になる。ディプロマコースは、高校卒業資格を持っていなくても入学はできるが、ディプロマ試験 (卒業試験) を受けることができない。修士課程は、学士または同等レベルの資格とドイツ語証明が必要。博士課程は、修士または中学校音楽教育学 (公認) 修了レベルの資格とドイツ語証明が必要である。

3.4.1. ドイツ語証明

ドイツ語が第一言語でない受験生は、レベル B1 のドイツ語試験で100分の70点以上を取得した証明書を入学までに提出しなければいけない。

ゲーテ・インスティトゥートが行っている試験「Goethe-Zertifikat B1」、オーストリアで行っている試験「ÖSD Zertifikat B1 (ZB1)」、ウィーン国立音楽大学で行っているドイツ語試験で証明書を取得することができる。「Goethe-Zertifikat B1」と「ÖSD Zertifikat B1 (ZB1)」は日本国内でも年に数回試験が行われている。

実技試験合格後、入学手続きまでにドイツ語の試験に合格する必要がある。間に合わなかった場合は、聴講生として入学することができ授業を取ることはできる (レッスンは受けられない) が、1年以内にドイツ語の証明が出すことができないと退学となる。

3.5. 入学時期

冬学期 (10月) か夏学期 (3月) のどちらかで入学手続きが行える。

4. カリキュラム (器楽科)

ここでは、器楽科のディプロマコースのカリキュラムについてまとめていく。このカリキュラムが対象となる専攻楽器は、バスチューバ、ファゴット、フルート、ギター、ハープ、ホルン、クラリネット、コントラバス、オーボエ、トロンボーン、サクソ、打楽器、トランペット、ヴィオラ、ヴァイオリン、チェロである。

4.1. ECTS ポイント・研究期間・研究段階

器楽科ディプロマコースの全範囲は360 ECTS⁴ポイント（単位）。2つの研究段階に分かれており、第一段階目は8ゼメスター、第二段階目は4ゼメスターの全12ゼメスターで構成されている。各段階には、それぞれディプロマ試験がある。第二段階のディプロマ試験に合格すると「Magister artium (Mag. art.)」の称号が取得できる。第一段階は学士課程に、第二段階は修士課程に相当するが、ディプロマコースは二段階全て終えないと修了証がもらえない。

4.2. 研究構成

大学のプログラムには大きく分けて、必須科目と選択科目、重点科目、そしてプレゼンテーションや論文などがある。ここからは、ヴァイオリン専攻の場合の必須科目（図2）や、選択科目等の授業項目を細かくまとめる。また、別の音楽大学で授業の単位を取得している場合には、振り替えができる科目もある。

4.2.1. 第一研究段階

必須科目（ヴァイオリン専攻）

Künstlerisch-praktische Lehrveranstaltungen	芸術的実践授業
Zentrales künstlerisches Fach Violine 1-8	専攻実技 ヴァイオリン1～8
Literaturstudium mit Solokorrepetition 1-8	ピアノ伴奏との演奏1～8
Klavier 1-8	ピアノ1～8
Viola für Violine 1,2	ヴィオラ1,2
Hospitation 1-3	レッスン聴講1～3
Vokalensemble 1,2	ボーカルアンサンブル1,2
Improvisation und kreatives Musizieren	即興と創造的演奏
Orchester 1-3	オーケストラ1～3
Orchester Viola	オーケストラ ヴィオラ
Orchester-Produktion 1	オーケストラプロダクション1
Orchesterliteratur Violine 1	オーケストラ オーディション対策 ヴァイオリン1
Kammermusik StreicherInnen 1-3	室内楽 弦楽 1～3
Klavierkammermusik 1	ピアノ室内楽 1
Kammermusik in diversen Besetzungen 1	室内楽 様々な編成1
Einführung in die Alte Musik	古典音楽 入門
Collegium musicum 1	古典音楽アンサンブル1
Musik der Gegenwart 1	現代音楽1

⁴ ECTS とは European Credit Transfer System の略。EU と他の協力しているヨーロッパ諸国の高等教育における学業単位を意味する。

Studieninformation	学習情報
Angewandte Musiktheorie,Musikwissenschaft	応用音楽理論・音楽科学
Musikgeschichte 1-3	音楽史 1～3
Einführung in die Orchester- und Opernliteratur	オーケストラとオペラ学 入門
Einführung in die Musik der Gegenwart	現代音楽 入門
Phänomen Klang (Instrumentalstudium)	音響学
Instrumentenkunde	楽器学
Einführung in das Musikverstehen 1,2	音楽解釈 入門 1, 2
Repetitorium allgemeine Musiklehre 1,2	基本的な音楽理論の復習 1, 2
Gehörtraining 1-6	ソルフェージュ 1～6
Angewandte Satzlehre 1-4	楽曲作法 応用 1～4
Satzlehre, themenspezifisch	テーマ別楽曲作法
Formenlehre 1,2	楽式理論 1, 2
Höranalyse	アナリゼ
Physiologie, Psychologie, Kulturbetrieb	生理学・心理学・文化事業
Einführung in die Atem- und Bewegungsarbeit	呼吸と運動法 入門
Angewandte Musikphysiologie 1	音楽生理学の応用
MusikerInnen-Psychologie	音楽的心理学
Kulturbetriebslehre1 alternativ Musikmanagement 1	文化事業もしくは音楽経営

(図2)

選択科目

上記の必修科目の他に、選択科目を1 2 ECTS 取得しなければいけない。そのうち、少なくとも4 ECTS は選択科目 A（芸術的実践）から、4 ECTS は選択科目 B（理論科学）から履修する必要がある。選択科目は以下の通りだ。（図3）

Wahlfachbereich A (künstlerisch-praktisch)	選択科目グループ A (実習芸術科目)
Aufführungspraxis klassische und romantische Kammermusik WF	演奏実習 古典とロマン派の室内楽
Bibliotheksmusik-Musikbibliothek WF	音楽図書館
Career Center-Workshops WF	キャリアセンターワークショップ
Collegium musicum WF	古典音楽アンサンブル
Drum Line für SchlagwerkerInnen 01-04 WF	打楽器専攻のためのドラムライン
Einführung in das Auftrittcoaching WF	パフォーマンス指導 入門
Einführung in die freie Improvisation 01,02	自由即興演奏入門
Einführung in die stilgebundene Improvisation 01,02	複合形式即興演奏入門
Einführung in die Jazz-Improvisation 01,02	ジャズ即興演奏入門
Einführung in Mentaltraining und Konzentrationspraxis WF	メンタルトレーニングと集中力実習入門
Ensemble Neue Musik WF	現代音楽アンサンブル
Gespräche zur Karriereentwicklung WF	キャリア開発講義

Gitarrenensemble 03,04 WF	ギターアンサンブル
Historischer Tanz 01	古典舞踏 1
Individuelle Atem- und Bewegungsarbeit 01,02	個人指導 呼吸法 運動法
Individuelle Atemübungen für BläserInnen 01-06 WF	個人指導 管楽器呼吸法
Kammermusik in diversen Besetzungen 04	室内楽 様々な編成 4
Kammermusik in diversen Besetzungen 05	室内楽 様々な編成 5
Kammermusik in diversen Besetzungen 06	室内楽 様々な編成 6
Kammermusik in diversen Besetzungen 07	室内楽 様々な編成 7
Klavier 07,08	ピアノ 7, 8
Klavier 09,10 WF	ピアノ 9, 10
Kontragitarre 01,02 WF	コントラギター 1, 2
Marimba 01,02 WF	マリンバ 1, 2
Marimba 03,04 WF	マリンバ 3, 4
Naturtrompete/Barocktrompete 01,02 WF	ナチュラル/バロックトランペット 1, 2
Nebeninstrument Bassposaune 05,06 WF	副楽器 バストロンボーン 5, 6
Nebeninstrumente HolzbläserInnen 05,06 WF	副楽器 木管楽器
Orchesterliteratur Violine 01,02 WF	オーケストラ ヴァイオリン 1, 2
Prima vista Praxis 01,02 WF	初見実習 1, 2
Produktion einer Tonaufnahme 01,02	録音制作 1, 2
Rhythmustraining Populärmusik	リズムトレーニング ポピュラー音楽
Rohrbaukunde 06 WF (für den Studiengang Oboe)	管の構造学 6
Rohrbaukunde 05,06 WF (für den Studiengang Fagott)	管の構造学 5, 6 (ファゴット専攻)
Saxophon-Orchester 05-08 WF	サクソフォーン オーケストラ 5～8
Schnittpunkt Volksmusik – Kunstmusik 01-04 WF	民族音楽～アート音楽の交差 1～4
Sinfonische Bläsermusik 01,02	交響楽 管楽器 1, 2
Viola für Violine 03,04 WF	ヴァイオリン専攻のためのビオラ 3, 4
Vokalensemble 03,04 WF	ボーカルアンサンブル 3, 4
Wahlfachbereich B (theoretisch-wissenschaftlich)	選択科目グループ B (理論 - 科学)
Akustik und spieltechnische Aspekte der Blas- und Schlaginstrumente	管と打楽器の音響と技術的観点
Akustik und spieltechnische Aspekte der Saiteninstrumente	弦楽器の音響と技術的観点
Akustisches Praktikum „Empirische Forschungsmethoden“	音響演習 「実験的研究方法」
Akustisches Praktikum „Klanganalyse und Signalverarbeitung“	音響演習 「音響分析とシグナル処理」
Angewandte Musikphysiologie 02 (Aufbau)	音楽生理学 応用 2 (構造)
Angewandte Musiktheorie 02	音楽理論 応用 2

Angewandte Satzlehre 06 (WF)	楽曲作法 応用 6
Ästhetik und Praxis der Neuen Musik 01,02	現代音楽の美学と実践
Deutsch 01-05 WF	ドイツ語 1～5
Ethnomuskologie 01	民族音楽 1
Geschichte der Musiktheorie 01-06	音楽理論の歴史 1～6
Historische Satztechnik 01-03	歴史的楽式法 1～3
Höranalyse 02 WF	アナリーゼ 2
Kommunikative Kompetenz, Präsenz und Emotion WF	コミュニケーション能力, プレゼン, 感情
Kontextualisierung, Repertoirekunde und Interpretationsgeschichte-Alte Musik WF	文脈化・演目学・演奏の歴史 古典音楽
Kontextualisierung, Repertoirekunde und Interpretationsgeschichte-Kammermusik WF	文脈化・演目学・演奏の歴史 室内楽
Kontextualisierung, Repertoirekunde und Interpretationsgeschichte-Neue Musik 01,02 WF	文脈化・演目学・演奏の歴史 現代音楽
Kulturbetriebslehre 03,04	文化事業 3, 4
Musikmanagement 03,04 WF	音楽経営 3, 4
Künstlerisches, künstl.-wissenschaftliches oder wissenschaftl. Projekt 225015	芸術的, 人工的又は科学的プロジェクト
Lernpsychologie	学習心理学
Musikgeschichte ausgewählte Kapitel	選ばれた時代の音楽史
Musikwissenschaftliches Proseminar 01,02	音楽学入門セミナー
Naturwissenschaftliche Grundlagen der Klangforschung	音研究の化学的基礎
Pop- und Jazz-Harmonielehre 01	ポップスとジャズの和音法

(図3)

重点科目

授業の範囲を補完しさらに理解を深めるために、1コース8 ECTS の様々な専門分野のコースが用意されている。(図4) 第一研究段階において、以下の10個のコースの中から一つを選択し全ての授業を履修しなければならない。

Kammermusik	室内楽
Alte Musik	古典音楽
Neue Musik	現代音楽
Lernen und Lehren	学習と教育
Klangforschung	音響学
Paulauski	ポピュラー音楽
Integrative Bewegungsarbeit	総合的運動法
Musikwissenschaft	音楽科学
Improvisation	即興
Volkmusik-Ethnomuskologie	民族音楽

(図4)

授業と試験

授業は全てドイツ語で行われる。授業ごとに生徒数が決まっており、成績は出席回数と試験の点数で決まる。定期的に筆記試験又は口答試験が全てドイツ語で行われる。追試は3回までであるが、3回目はその教科の複数人の先生との面談による試験だが、これに不合格だった場合は退学となる。

芸術的プレゼンテーション/論文

第一研究段階では、授業や試験の他にプレゼンテーションを行うか論文を提出しなければいけない。

プレゼンテーションを行う場合、専攻している科の主任から与えられた課題を元に、公開演奏をし、音楽史的、音楽理論的、演奏実践的、または美学的な観点から口答でも説明しなければいけない。またテキストでの提出も必要である。

論文を提出する場合は、音楽学や音楽理論の授業の枠組みの中で、各授業の講師監修のもと、生徒が選択したテーマについて音楽理論的に分析する。

4.2.2. 第二研究段階

第二研究段階は、特定の専門職に向けての準備段階である。よってプログラムは20のプロファイルの形で個別化されている。(図5) ソロプロファイル以外、専攻するプログラムは自由に選択することができ、一度だけ変更することができる。プログラムごとに必修科目や単位数も変わってくる。

プロファイル

1	Berufsbegleitendes Profil für OrchestermusikerInnen	オーケストラ奏者のための職業コース
2	Profil Gitarre	ギター
3	Profil Harfe	ハープ
4	Profil Historisch informierte Interpretationspraxis	歴史的情報に基づいた解釈と実践
5	Profil Interpretationspraxis Neue Musik	現代音楽の解釈と実践
6	Profil Interpretationspraxis Neue Musik Holzblasinstrumente	現代音楽の解釈と実践 木管楽器
7	Profil Kammermusik - Harfe	室内楽 ハープ
8	Profil Kammermusik - Holzblasinstrumente	室内楽 木管楽器
9	Profil Kammermusik - Horn	室内楽 ホルン
10	Profil Kammermusik - Klarinette	室内楽 クラリネット
11	Profil Kammermusik - Streichinstrumente	室内楽 弦楽器
12	Profil Orchester - Blechblasinstrumente	オーケストラ 吹奏楽

1 3	Profil Orchester · Holzblasinstrumente	オーケストラ 木管楽器
1 4	Profil Orchester · Posaune	オーケストラ トロンボーン
1 5	Profil Orchester · Streichinstrumente	オーケストラ 弦楽器
1 6	Profil Saxophon	サクソ
1 7	Profil Schlaginstrumente	打楽器
1 8	Profil Solo	ソロ
1 9	Profil Marimbaphon	マリンバ
2 0	Profil Multipercussion	マルチパーカッション

(図5)

選択科目

第二研究段階では、選択したプロフィールの他に、選択科目を6 ECTS 取得しなければならない。上記の選択科目一覧より選択可能。(図3)

ディプロマ論文

第二研究段階中にディプロマ論文を提出しなければならない。論文は、「芸術的ディプロマ論文」と「学問的ディプロマ論文」の2種類ありどちらかを選べる。

芸術的ディプロマ論文は、演奏部分と筆記部分の2つの項目があり、それぞれ担当の先生に監督してもらう必要がある。テーマは自由に決められるが、演奏部分では取り上げたテーマに沿った曲目を自身で演奏し録音しなければならない。そして、音源を論文に添付し提出する。

5. 卒業試験

全ての授業の単位を取り終え、論文が受理された後、ディプロマ試験を申し込むことができる。ディプロマ試験には「第一ディプロマ試験」と「第二ディプロマ試験」がある。第一ディプロマ試験は第一研究段階の最後に、第二ディプロマ試験は第二研究段階の最後に受けなければならない。ここでは、それぞれのディプロマ試験（ヴァイオリン専攻）の内容についてまとめていく。

5.1. 第一ディプロマ試験

以下のプログラムを用意する。

- 1) バッハ (BWV1001/1003/100 より 1,2 楽章、もしくは BWV1002 より 2つの楽章と Double、もしくは BWV1004 より 4つの楽章、もしくは BWV1006 より 4つの楽章あるいは Ciaconna)
- 2) 2つのエチュードまたはカプリス (ローデ又はクロイツァーカプリスより 24番/エルンスト/ガビニエ/ヴィエニャフスキ/パガニーニ)
- 3) モーツァルト ヴァイオリン協奏曲より 1,2 楽章 (カデンツァを含む)
- 4) 時代の違うソナタ 2曲 (ヴァイオリンとピアノのためのソナタ、もしくはそろソ

ナタ)

- 5) 大きなヴァイオリン協奏曲 全楽章(ベートーヴェン以降)
- 6) オーケストラのコンサート又はオペラ作品よりオーディションパートを3曲

試験で演奏する曲は1週間前に発表になる。ピアノとヴァイオリンのためのソナタとオーケストラパート以外は全て暗譜しなければいけない。(資料3)

5.2. 第二ディプロマ試験

第二ディプロマ試験は、非公開試験とコンサート形式の公開試験の2つに分けられる。選択したプロファイルによって課題は変化するが、ここではソロコースのプログラムを例として挙げる。

- 1) バッハ：ソナタかパルティータ1曲
- 2) カプリス4曲 (パガニーニ/ヴィエニャフスキ/エルンスト)
- 3) モーツァルト ヴァイオリン協奏曲1曲
- 4) 大きなヴァイオリン協奏曲2曲 (ベートーヴェン以降)
- 5) 古典派ソナタ1曲
- 6) ロマン派ソナタ1曲
- 7) 大きなソロソナタ1曲：バルトークもしくはイザイ4/5/6番
- 8) ヴィルトゥオーゾ作品2曲
- 9) 1945年以降の現代曲1曲
- 10) コンサートマイスターソロパート

公開試験では準備した課題の1/3を、大きな協奏曲の一部(1楽章又は1,2楽章)とヴィルトゥオーゾ作品を1曲を含めてプログラムに入れなければいけない。試験時間は約50分。(資料4)

5.3. 学位

卒業試験の総合評価は、第一ディプロマ試験と第二ディプロマ試験の評価(5段階評価)を考慮して決まる。合格であれば卒業証明書が出され、学位「Magister artium」を研究ディレクターによって授与される。

まとめ

この研究を通して、ウィーン国立音楽大学の音楽教育について、大学の歴史から制度やプログラムまで深く知ることにより、ウィーン国立音楽大学が世界の音楽大学ランキングで1位になった理由がよく理解できた。

まず言えるのは、音楽に関する授業やプロジェクト、ワークショップの多さだ。日本の音楽教育では、演奏技術の向上に特化しソリストを育てることに集中しているが、ウィーン国立音楽大学は専攻楽器だけでなく、生徒の様々な将来性を発見することができる授業やワークショップを数多く提供し、多方面から音楽を学ぶことで生徒それぞれの可能性を最大限に引き出してくれる。

専攻以外の楽器を学ぶ場合には、大学の楽器を貸し出してくれたり、17世紀以前の古典音楽から現代音楽まで、実際の楽器を使用して授業やレッスンも受ける事ができる。オーケストラ奏者を目指す生徒のためにも力を入れており、オーディションを受けるためのトレーニングをウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の奏者から直接受ける事ができたり、オーケストラの授業では同楽団の奏者が指揮と指導をしてくれる。また、大学専属の管弦楽団があり、プロジェクトに参加すると、世界的有名指揮者を招いてウィーンの主要なホールで行われるコンサートに団員として演奏する事ができる。

日本の音楽大学と圧倒的に違う点は、授業料の違いだ。受験料や入学金はかからず、欧州連合と欧州経済領域内の国民は10万以下、それ以外の国民は20万以下の授業料で、一流のレッスンや授業を、才能や可能性を持った生徒が世界中から学びに来ることができる。国立の音楽大学ということもあり、オーストリアの税金で海外の生徒が安く学べるのだから、それだけ授業や試験内容は難しく卒業するのは簡単ではない。ただ、授業やレッスンのクラスには人数制限があり少人数で行われるため、生徒一人一人に対しての指導も手厚く、授業への理解が深まりスキルアップにも繋がる。

入学試験は、技術で判断するのではなく、生徒の個性や芸術性や才能をみて判断するため、大学内には様々なジャンルの才能を持った生徒が多く在籍している。そうした才能を学習過程で多方面からサポートすることにより、卒業後の音楽家としての道も広がるのだろう。

このような最高峰の大学で7年間学びディプロマコースを修了できたことを誇りに、今後はこの経験と知識を生かし、日本の芸術文化、そして音楽教育に貢献できるよう努力していきたい。

参考資料

Zulassungsprüfung

Durch die Zulassungsprüfung sind die Eignung für das gewählte zentrale künstlerische Fach, sowie die instrumentalen Vorkenntnisse am gewählten Instrument festzustellen. In der Prüfung sind weiters Kenntnisse aus allgemeiner Musiklehre nachzuweisen. Die Zulassungsprüfung gliedert sich in folgende Teile:

- a) Schriftliche Prüfung aus allgemeiner Musiklehre einschließlich eines Gehörtests; diese kann bei Bedarf durch eine mündliche Prüfung ergänzt oder ersetzt werden.
- b) Vortrag mehrerer Werke aus verschiedenen Stilrichtungen am gewählten Instrument.
Vorzubereiten sind:
 - Ein Violinkonzert (alle Sätze und Kadenz)
 - Ein langsamer und ein schneller Satz aus einer Bach Solosonate oder Partita
 - Eine Sonate für Violine und Klavier freier Wahl
 - Eine Etüde oder Caprice (Rode, Dont, Gavinies, Wieniawski, Paganini)

Nur wenn beide Teile erfolgreich absolviert wurden, liegt eine künstlerische Eignung vor. Ob die Zulassungsprüfung insgesamt bestanden wurde und eine Zulassung möglich ist, entscheidet sich anhand der vorhandenen Ressourcen und der Anzahl der geeigneten Studienwerber_innen.

Zulassungswerber, die Teil b) positiv ablegen und Teil a) nicht bestehen, haben die Möglichkeit Teil a) einmalig am dafür festgesetzten Wiederholungstermin für das beantragte Zulassungsemester zu wiederholen. Wird diese Möglichkeit nicht wahrgenommen, ist die Zulassungsprüfung frühestens zum nächsten regulären Termin in ihrer Gesamtheit zu wiederholen.

(資料1) ウィーン国立音楽大学 入学試験 ヴァイオリン課題 2020/21

GEHÖRTEST - MUSIKLEHRE

11. März 2019

Name / last name:

Instrument:

Vorname / first name:

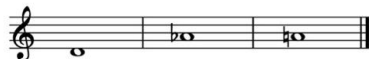
1. Intervalle notieren (untere Note gegeben)

Write intervals (lower note given)



2. Akkorde notieren (untere Note gegeben)

Write chords (lowest note given)



- 3a. Ergänzen Sie fehlende Vorzeichen:

Add missing accidentals:



- 3b. Transponieren Sie diese neue Version in folgende Tonart:

Now transpose this new version to this key:



4. Ergänzen Sie die Unterstimme:

Write lower voice:



5. Rhythmus:

rhythm:



(資料2 a) 入学試験 音楽理論 ソルフエージュ 過去問 2019年

6. Ergänzen Sie fehlende Noten und Vorzeichen:
Add what's missing:

7. Ergänzen Sie den zweiten Akkord:
Write the second chord:

8. Benennen sie genau die folgenden Intervalle und Akkorde:
Write the precise names for the following intervals and chords:

9. Schreiben Sie Tonartvorzeichen für:
Notate key signatures for:

es-Moll
e flat minor

H-Dur
b major

g-Moll
g minor

(資料 2b) 入学試験 音楽理論 ソルフェージュ 過去問 2019 年

1. Diplomprüfung

Folgendes Programm ist vorzubereiten:

- 1) Bach (die ersten beiden Sätze aus BWV 1001, 1003 oder 1005, oder zwei Sätze mit Double aus BWV 1002, oder die ersten vier Sätze aus BWV 1004, oder die Ciaccona, oder vier Sätze aus BWV 1006)
- 2) Zwei Etüden oder Capricen: Paganini, Wieniawski, Ernst, Gavinies, Capricen Nr. 24 von Rode und Kreutzer
- 3) Die ersten zwei Sätze eines Mozart Violinkonzertes (inkl. Kadenzen)
- 4) Zwei Sonaten aus verschiedenen Stilepochen (Sonaten für Violine und Klavier oder Solosonaten)
- 5) Ein komplettes großes Violinkonzert (ab Beethoven)
- 6) Drei Probespielstellen aus der Konzert- und Opernliteratur

Die Auswahl der zu spielenden Stücke wird eine Woche vor der Prüfung bekannt gegeben, es werden immer komplette Sätze verlangt. Alle Werke – mit Ausnahme der Sonaten für Violine und Klavier und der Orchesterstellen – müssen **auswendig** vorgetragen werden.

(資料 3) 第一ディプロム試験 ヴァイオリン課題

Profil Solo

Folgendes Programm ist vorzubereiten:

Bach: Eine der Sonaten oder Partiten
4 Capricen (Paganini, Wieniawski, Ernst)
1 Mozart Violinkonzert
2 große Violinkonzerte (beginnend mit Beethoven)
1 klassische Sonate
1 romantische Sonate
Eine große Solosonate: Bartok oder Ysaye 4/5/6
Zwei virtuose Werke
Ein „modernes“ Werk, geschrieben nach 1945
5 Konzertmeistersoli

In der öffentlichen Prüfung muss gespielt werden: Ein Teil des großen Violin-Konzertes (entweder der 1. Satz oder der 2. und 3. Satz) und ein virtuoseres Werk.
Gesamtdauer der Prüfung: ca. 50 Min.

(資料4) 第二ディプロム試験 ソロヴァイオリン課題

参考文献

ウェブページ

1. "mdw - Universität für Musik und ... - mdw HOME | mdw."
<https://www.mdw.ac.at/>. (参照 2021-1-10)
2. "Die Geschichte der mdw | mdw - mdw HOME | mdw."
<https://www.mdw.ac.at/405/>. (参照 2021-1-10)
3. "Institute | mdw - Universität für Musik und darstellende"
<https://www.mdw.ac.at/421/>. (参照 2021-1-10)
4. "Studienangebot | mdw - Universität für Musik und"
<https://www.mdw.ac.at/1229/>. (参照 2021-1-10)
5. "Mein Studium organisieren | mdw - Universität für Musik"
<https://www.mdw.ac.at/1235/>. (参照 2021-1-10)
6. "Studienbeitrag | StudienCenter - mdw HOME | mdw."
<https://www.mdw.ac.at/StudienCenter/studienbeitrag/>. (参照 2021-1-10)
7. "Mein Studium organisieren | mdw - Universität für Musik"
<https://www.mdw.ac.at/1235/>. (参照 2021-1-10)
8. ウィーン国立音楽大学「入学試験要項」
<https://www.mdw.ac.at/studienplaene/?stNR=33470&stArt=infozp> (参照 2021-1-10)
9. ウィーン国立音楽大学「カリキュラム」
<https://www.mdw.ac.at/studienplaene/?stNR=33470&stArt=cur> (参照 2021-1-10)
10. ウィーン国立音楽大学「選択科目一覧」
https://www.mdw.ac.at/upload/MDWeb/stdi/downloads/WF2019_20_Instrumental_Homepage-01.pdf (参照 2021-1-10)
11. ウィーン国立音楽大学「論文規定」
<https://www.mdw.ac.at/upload/MDWeb/stdi/downloads/1Leitfaden.pdf> (参照 2021-1-10)
12. ウィーン国立音楽大学「卒業試験要項」
https://www.mdw.ac.at/upload/MDWeb/stab/downloads/Violine_komplett.pdf (参照 2021-1-10)